



克己

第57号

発行日
平成30年7月5日

発行
天城中学校 PTA

編集
広報委員会

言葉



PTA会長
浅田 良一

壁にぶつかり過ぎている私ですが、もし皆さんが子育てや仕事で、ちよつと背中を押して欲しいとき、たった一言で人生が変わる、そんな魔法のような言葉があるとウレシいですよね。今回は私が背中を押して貰ったプロ野球の偉人の言葉を紹介したいと思います。

アメリカメジャーリーグのシーズン最多安打記録や10年連続200安打など、多くの記録を保持しているイチロ―選手「やってみて『ダメだ』とわかったことと、はじめから『ダメだ』と言われたことは、違います。」

史上初の三冠王を3度達成した落合博満選手「精神的なスランプからは、なかなか抜け出すことはできないが、根本的な原因は、食事や睡眠のような基本的なことにあるのに、それ以外のところから原

因を探してしまうんだ。」

通算試合出場数は歴代1位、通算安打、本塁打、打点、塁打数は歴代2位の記録を持つ野村克也選手「『叱る』と『褒める』というのは同意語だ。情熱や愛情が無いと、叱っても、ただ怒られているというところえ方をする。」

根拠のない自信が必要な理由



校長
日吉 隆徳

3月の公立入試の前日、3年生に受験の心構えについて話をする機会をつくっていた。今更テストの受け方云々を述べても効果はないと考えたわたしは、試験に合格するために「根拠のない自信」が必要だという話をした。のちに、卒業を迎えた3年生の何名からか、「あのときの話で、試験の時に気持ちを落ち着かせることができた」と言われ、少しは役に立ったのかとうれしくなった。

わたしが「根拠のない自信」が必要だと感じたのは、実は

長男の高校受験のときである。長男はあまり勉強が得意でなかったが、自分なりにやりたいたいことがあって自分で進学したい高校を選んでいった。

おそらく自分がその高校でどんな生活を送るのか、自分なりのイメージをもって面接に臨んだのであろう。帰宅してすぐにその様子を尋ねた両親に、「ぼくは面接官の心をつかんだような気がする」と言っていたのである。

そんな長男は、高校入学後、両親が予想もしなかった部活動を選び、苦しいこともあったが3年間やり通した。すばらしい友達にも恵まれ、高校生活を十分に楽しんだようだ。契機は、高校の一日体験入学だった。自分の目でしっかりと見て、この学校で学びたい、この学校でならやれそうだと確信したのである。三者面談で初めて本人の口からその高校の名前が出てきた。その日を境に、学習への取り組みも前向きになった。

一方、「根拠に基づいた自信」というものは、その人の努力によって成功体験が積み上げられることで大きくなっていく。しかし、人には弱いところ